

日本語学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本語構造論特論Ⅰ	一般言語学は何を目指してきたか—日本語分析から考える	2	甲田 直美	1	月曜3限
日本語構造論特論Ⅱ	日本語文法研究	2	大木 一夫	1	木曜2限
日本語変異論特論Ⅰ	方言研究の開拓	2	中西 太郎	2	水曜2限
日本語変異論特論Ⅱ	辞書と文字・表記史	2	菊地 恵太	2	水曜4限
日本語学特論Ⅰ	現代日本語コミュニケーションの諸相	2	岡本 雅史	1	集中講義
日本語学総合演習Ⅰ	日本語史・方言研究の諸問題(1)	2	大木 一夫	1	火曜4限
日本語学総合演習Ⅱ	現代日本語研究の諸問題(1)	2	大木 一夫	2	火曜4限
日本語学総合演習Ⅲ	日本語史・方言研究の諸問題(2)	2	大木 一夫	1	火曜5限
日本語学総合演習Ⅳ	現代日本語研究の諸問題(2)	2	大木 一夫	2	火曜5限
日本語構造論研究演習Ⅰ	日本語の修飾	2	大木 一夫	2	木曜2限
日本語構造論研究演習Ⅱ	言語人類学	2	講師(非)	2	集中講義
日本語変異論研究演習Ⅰ	方言調査法	2	中西 太郎	1	水曜2限
日本語変異論研究演習Ⅱ	文献による日本語史研究	2	菊地 恵太	1	水曜4限

科目名：日本語構造論特論Ⅰ

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：甲田 直美

コード：LM11303, **科目ナンバリング：**LJS-LIN601J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：一般言語学は何を目指してきたかー日本語分析から考える

2・授業の目的と概要：一般言語学は、どのような理論を提供してきただろうか。これらを検討しながら、日本語の談話・文章における諸研究と対比させて検討を進める。

3. 学習の到達目標：(1) 言語学の基本概念を理解する。
(2) 授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

一般言語学、文章・談話研究に関する文献から以下の観点について論文を読み解けるようにする。

- 1 言語の理論
- 2 一般言語学は何を目指してきたか 1
- 3 一般言語学は何を目指してきたか 2
- 4 一般言語学は何を目指してきたか 3
- 5 言語学の概念の検討 1
- 6 言語学の概念の検討 2
- 7 言語学の概念の検討 3
- 8 会話に頻繁に見られる現象 1
- 9 会話に頻繁に見られる現象 2
- 10 会話に頻繁に見られる現象 3
- 11 会話に頻繁に見られる現象 4
- 12 研究テーマの着眼点，レポートの書き方
- 13 研究の進め方 1
- 14 研究の進め方 2
- 15 レポートの書き方

5. 成績評価方法：発表 [30%]・出席 [30%]・授業中の提出物 [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：論文を読んで批評を行い、授業内で発表する。参加者は全員、論点を提出する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本語構造論特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大木 一夫

コード：LM14202, **科目ナンバリング：**LJS-LIN602J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2・授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、日本語の叙述構造。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンス
- 第 2 回：文法研究とは何か
- 第 3 回：先行研究の分析について
- 第 4 回：テーマ概説
- 第 5 回：研究史の分析(1)
- 第 6 回：研究史の分析(2)
- 第 7 回：研究史の分析(3)
- 第 8 回：研究史の分析(4)
- 第 9 回：分析実践(1)
- 第 10 回：分析実践(2)
- 第 11 回：分析実践(3)
- 第 12 回：分析実践(4)
- 第 13 回：分析実践(5)
- 第 14 回：分析実践(6)
- 第 15 回：まとめ

5. 成績評価方法：参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

6. 教科書および参考書：必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

7. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修時は Google Classroom に登録すること。

科目名：日本語変異論特論Ⅰ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：中西 太郎

コード：LM23202, **科目ナンバリング：**LJS-LIN603J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2・授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討して

3. 学習の到達目標：(1) 講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2) 講義でテーマにする研究領域の分析を的確にできる

(3) ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第 3 回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第 4 回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第 5 回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第 6 回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第 7 回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第 8 回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第 9 回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第 10 回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第 11 回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第 12 回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第 13 回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第 14 回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第 15 回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

5. 成績評価方法：レポート（50%）、発表内容（30%）、授業への参加状況（課題などへの取り組みを含む）（20%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：(1) 言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

(2) 研究発表のための分析、資料作成などの準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

出席回数 2/3 未満の者は単位を認定しない。

出席率が高くても、研究活動に十分に協力できない学生には単位を認めない場合がある。

科目名：日本語変異論特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：菊地 恵太

コード：LM23401, **科目ナンバリング：**LJS-LIN604J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：辞書と文字・表記史

2・授業の目的と概要：日本では古代から様々な形態の辞書が編纂され、それらは日本語史、特に文字・表記史研究の上で非常に有用である。この授業では、日本における辞書（字書）の歴史や古辞書の利用方法、またその問題点について概説し、その上で現在までにどのような文字・表記史研究が行われてきたか取り上げたい。最終的には、日本語文字・表記史に関する問題を自身で設定し、調査の上レポートとしてまとめてもらう。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 日本における辞書の歴史、利用方法を理解する。
(2) 日本語の文字・表記史の現状、研究史を理解する。
(3) 日本語の文字・表記に関わる問題点を取り上げ、調査・分析を行うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 中国の字書
- 第 3 回 日本の古辞書 (1)
- 第 4 回 日本の古辞書 (2)
- 第 5 回 近現代の辞書
- 第 6 回 近世以前の漢字研究
- 第 7 回 漢字字体史 (1)
- 第 8 回 漢字字体史 (2)
- 第 9 回 仮名字体史 (1)
- 第 10 回 仮名字体史 (2)
- 第 11 回 仮名遣い研究 (1)
- 第 12 回 仮名遣い研究 (2)
- 第 13 回 文字・表記の調査方法、レポートの書き方
- 第 14 回 レポート構想発表 (1)
- 第 15 回 レポート構想発表 (2)

※内容・日程は授業の進捗状況や受講者数によって若干の変更を加える可能性がある。

5. 成績評価方法：参加態度・課題 (40%) 期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない (プリント配布)。参考書は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：授業内で小課題 (宿題) を課すことがある。ノートやメモを積極的に取り、復習やレポートの構想に役立てること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

授業中の検索用端末 (スマートフォン、パソコン等) の利用は可とする。

科目名：日本語学特論Ⅰ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：岡本 雅史

コード：LM98812, **科目ナンバリング：**LJS-LIN605J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語コミュニケーションの諸相

2・授業の目的と概要：現代の日本語コミュニケーションについて、語用論、認知言語学、コミュニケーション学の立場から、「ディスコミュニケーション」「音声表現」「独話と対話」「共感」「アドレス性」「非流暢性」というコミュニケーションの多様な側面を解き明かす視点を身につけることを目的とする。授業では豊富な実例の観察と研究事例の紹介を交えながら、一見するとバラバラで無関連の諸側面が、現実のコミュニケーションにおいては有機的に繋がりを持っていることを解説する。

3. 学習の到達目標：(1) 現代の日本語コミュニケーションの多様な問題について学術的術語を適切に用いて説明できるようになる。

(2) 日常会話からフィクション作品や話芸に至るまで統一的な観察視点を持つことができるようになる。

(3) ことばとコミュニケーションに係る研究テーマを自身の関心に基づいて適切に設定することができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ① ガイダンス：現代日本語コミュニケーションをどう捉えるか？
- ② 語用論的意味をめぐるディスコミュニケーション(1)：「犬笛」と会話の含意
- ③ 語用論的意味をめぐるディスコミュニケーション(2)：SNS 上のアイロニー
- ④ 語用論的意味をめぐるディスコミュニケーション(3)：ASD と語用障害
- ⑤ コミュニケーションとしての音声表現(1)：「一人で話す」～音声表現の基礎技術
- ⑥ コミュニケーションとしての音声表現(2)：「二人で話す」～漫才対話とオープンコミュニケーション
- ⑦ 独話と対話の相互依存性(1)：学術エッセイの対話変換の実践
- ⑧ 独話と対話の相互依存性(2)：仮想的相互行為とオープンコミュニケーション
- ⑨ 共感を惹き起こすコミュニケーションデザイン(1)：〈共感チャネル〉の発見
- ⑩ 共感を惹き起こすコミュニケーションデザイン(2)：参照点能力と共感
- ⑪ 共感を惹き起こすコミュニケーションデザイン(3)：相互行為における比喻
- ⑫ 日常会話におけるアドレス性と非流暢性(1)：アドレス性をめぐる諸問題
- ⑬ 日常会話におけるアドレス性と非流暢性(2)：非流暢性に着目した事例研究
- ⑭ 日常会話におけるアドレス性と非流暢性(3)：棒読みと発話リズム
- ⑮ 総括

5. 成績評価方法：平常点（参加姿勢 30%・授業内課題 20%）および期末レポート課題（50%）の総合評価

6. 教科書および参考書：特定の教科書は指定しない。スライド資料を提示する。参考書および参考文献はその都度提示する。

7. 授業時間外学習：(1) 授業内で提示する小課題に取り組む。

(2) 授業内で紹介した参考文献を授業終了後に入手し内容を確認することで自身の学びを深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

なし

科目名：日本語学総合演習 I

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大木 一夫、甲田 直美、中西 太郎、菊地 恵太

コード：LM12403, **科目ナンバリング：**LJS-LIN606J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(1)

2・授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

- 3. 学習の到達目標：**(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：ガイダンス・研究発表の方法

第 2 回：研究発表(1)

第 3 回：研究発表(2)

第 4 回：研究発表(3)

第 5 回：研究発表(4)

第 6 回：研究発表(5)

第 7 回：研究発表(6)

第 8 回：研究発表(7)

第 9 回：研究発表(8)

第 10 回：研究発表(9)

第 11 回：研究発表(10)

第 12 回：研究発表(11)

第 13 回：研究発表(12)

第 14 回：研究発表(13)

第 15 回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

- 5. 成績評価方法：**(1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
(2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

7. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演 II も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大木 一夫、中西 太郎、菊地 恵太

コード：LM22404, **科目ナンバリング：**LJS-LIN607J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(1)

2・授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

- 3. 学習の到達目標：**(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

- 5. 成績評価方法：**(1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
(2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

7. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習Ⅰも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅲ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大木 一夫、甲田 直美、中西 太郎、菊地 恵太

コード：LM12503, **科目ナンバリング：**LJS-LIN608J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(2)

2・授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

- 3. 学習の到達目標：**(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

- 5. 成績評価方法：**(1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
(2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

7. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演Ⅳも連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅳ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大木 一夫、中西 太郎、菊地 恵太

コード：LM22502, **科目ナンバリング：**LJS-LIN609J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(2)

2・授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

- 3. 学習の到達目標：**(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

- 5. 成績評価方法：**(1) レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
(2) 参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

7. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 III も連続履修すること。

科目名：日本語構造論研究演習Ⅰ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大木 一夫

コード：LM24202, **科目ナンバリング：**LJS-LIN610J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語の修飾

2・授業の目的と概要：言語を分析するにあたり、「修飾」という術語がよくもちいられる。では、この修飾とはどのようなものなのか。これまでの修飾にかかわる日本語研究をとりあげ、それらを丁寧に読みすすめながら、日本語における修飾というものの範囲やその機能について考えていく。そこでは、具体的なデータにもとづいて考え、議論するという姿勢を大切にしたい。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語研究における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 具体的な例文にもとづき日本語学的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究における「修飾」概念の概略
3. 日本語学のテキストを読むということ
4. 日本語修飾論のテキストを読む①
5. 日本語修飾論のテキストを読む②
6. 日本語修飾論のテキストを読む③
7. 日本語修飾論のテキストを読む④
8. 日本語修飾論のテキストを読む⑤
9. 日本語修飾論のテキストを読む⑥
10. 日本語修飾論のテキストを読む⑦
11. 日本語修飾論のテキストを読む⑧
12. 日本語修飾論のテキストを読む⑨
13. 日本語修飾論のテキストを読む⑩
14. 日本語修飾論のテキストを読む⑪
15. 日本語修飾論のテキストを読む⑫、まとめ

5. 成績評価方法：参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

6. 教科書および参考書：必要な資料、テキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

7. 授業時間外学習：日本語の修飾にかかわる文献資料を読んで参加する。論述の問題点を探す。
修飾語についての調査をおこなう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

Google Classroom に登録すること。

科目名：日本語構造論研究演習Ⅱ

曜日・講時：集中講義

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LM98817, **科目ナンバリング：**LJS-LIN611J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語人類学

2・授業の目的と概要：アメリカ発祥の学問分野である言語人類学は、人類学の4分野のひとつとみなされ、人間社会と文化におけることばとディスコースの意味について、解釈的に理解する理論と方法論である。本講義では言語人類学の代表的な民族誌研究、また理論的な枠組みと方法論について概説する。流動的に変化する社会文化をディスコースの切り口からいかに捉えるかを共に考え、受講者各自が研究の視野を広げ、自律的にディスコースを研究する力を養うことを目的とする。

3. 学習の到達目標：(1) 言語人類学における中心的概念について理解し、それを援用したディスコース研究の方法を理解する。
(2) 言語人類学の方法を用いて、特定のディスコース現象を多角的に読み取るための実践を行う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 自己紹介・言語人類学とはどんな学問か
2. パース記号論と記号論系言語人類学
3. 言語相対理論からディスコース中心の文化論へ
4. コミュニケーションの民族誌Ⅰー方法論と古典を中心に
5. あいさつとアメリカ社会のスマールトーク
6. 言語人類学から見る対照言語学と場の理論
7. コミュニケーションの民族誌Ⅱー最近の動向から
8. ことばの詩学Ⅰ
9. ことばの詩学Ⅱ #BLM 運動の詩学
10. 課題についての説明とグループワーク①
11. 言語人類学におけるナラティブ研究
12. 多言語社会を捉えるための道具
13. グループワーク②
14. グループワーク発表
15. 総論：最終レポートについて

5. 成績評価方法：レポート 50%、授業への貢献 10%、授業内提出物 20%、個人／グループ発表 20%

6. 教科書および参考書：『言語人類学への招待ーディスコースから文化を読む』（ひつじ書房）

7. 授業時間外学習：指定教科書と論文の購読、課題とグループワークの準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

提出物のために PC やタブレットを持参することを推奨します。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅰ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：中西 太郎

コード：LM13203, **科目ナンバリング：**LJS-LIN612J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2・授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

3. 学習の到達目標：(1) 方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2) 方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3) 方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. テーマ等設定に向けての作業 (1)

6. テーマ等設定に向けての作業 (2)

7. 中間報告 (1)

8. 中間報告 (2)

9. 調査票の作り方についての解説

10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法

11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方

12. 現地調査と結果の分析 (1)

13. 現地調査と結果の分析 (2)

14. 最終報告 (1)

15. 最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

5. 成績評価方法：レポート(50%)・授業への参加状況（課題などへの取り組みを含む）(30%)・発表内容（20%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

7. 授業時間外学習：(1) 調査テーマの設定のための学習と議論、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2) 現地調査に参加し、結果の分析を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

出席回数 2/3 未満の者は単位を認定しない。

出席率が高くても、方言調査の準備などに十分に協力できない学生には単位を認めない場合がある。

方言調査に参加するのに一定の費用が必要になる。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：菊地 恵太

コード：LM13403, **科目ナンバリング：**LJS-LIN613J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文献による日本語史研究

2・授業の目的と概要：『今昔物語集』は院政期に成立した最大規模の説話集として知られるが、この授業では、近世に刊行された平仮名書きの絵入りの版本である『考訂今昔物語』を読む。原典の『今昔物語集』との表記・文体の差異に注目しつつ、本文を丁寧に読み進め、日本語史上問題となる点について取り上げる。さらに、問題となる語について調査・発表を行い、文献による日本語史の分析方法を習得する。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 資料の特性、研究上の有用性を理解する。
(2) 変体仮名の読み方を習得するとともに、辞書等の記述を利用し、古典資料を適切に読解することができる。
(3) 文献調査を通して適切にデータの収集・分析を行い、研究発表を行うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 資料の読み方
- 第 3 回 文献調査の方法
- 第 4 回 資料の読解 (1)
- 第 5 回 資料の読解 (2)
- 第 6 回 調査結果の発表 (1)
- 第 7 回 調査結果の発表 (2)
- 第 8 回 調査結果の発表 (3)
- 第 9 回 調査結果の発表 (4)
- 第 10 回 調査結果の発表 (5)
- 第 11 回 調査結果の発表 (6)
- 第 12 回 調査結果の発表 (7)
- 第 13 回 調査結果の発表 (8)
- 第 14 回 調査結果の発表 (9)
- 第 15 回 調査結果の発表 (10)

※発表日程は授業の進捗状況や受講者数によって変更となる可能性がある。

5. 成績評価方法：小テストとして、テキスト(変体仮名)を読めているかどうかチェックを行う。

小テスト・課題 (20%) 発表の参加 (30%) レポート (50%)

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない(プリント配布)。参考書は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：テキスト読解の予習が毎回必須となる。調査や発表準備にはさらに時間を要するため、前もって早めに取り組むこと。ノートやメモを積極的に取り、発表やレポートに役立てること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

授業中の検索用端末(スマートフォン、パソコン等)の利用は可とする。